

電車の優先席は廃止すべきである

一年一組 西村 史緒理

特定の席にマークを付けてお年寄りや体の不自由な人の指定席とするようなことはやめて、全ての席がいつでも優先席になるものとしたほうがよい。

先日、バスに乗って出かけたときに、非常に混雑していたにもかかわらず、優先席が空いているのを見た。優先席近くにはお年寄りや子供連れの人などはおらず、次々に乗ってくる人でバスの中はすし詰めの状態だったが、誰も座ろうとしなかった。私が降りようとして席を立ったときは、その席に人が座ったが、優先席はやはり空いたままだった。

優先席に誰かが座れば、その分だけ立っている場所に余裕ができたはずだ。しかし、周囲に席を譲ったほうがよい人がおらず、かつ混雑した状況にもかかわらず、誰も座ろうとしなかったのは、そこが「優先席」だったからだと考えられる。席を譲ったほうがよい人がいないか、手助けを必要としている人はいないか、周囲に目を配りながら、状況に応じた行動をとることが大切はずだ。しかし、特定の席を「優先席」と定めているために、その席には座らないものと機械的に決めてしまつて、状況に応じた判断ができなくなっているのではないか。

以上のことから、特定の席を優先席とするのはやめて、全ての席がいつでも優先席になるものとしたほうがよいと考える。